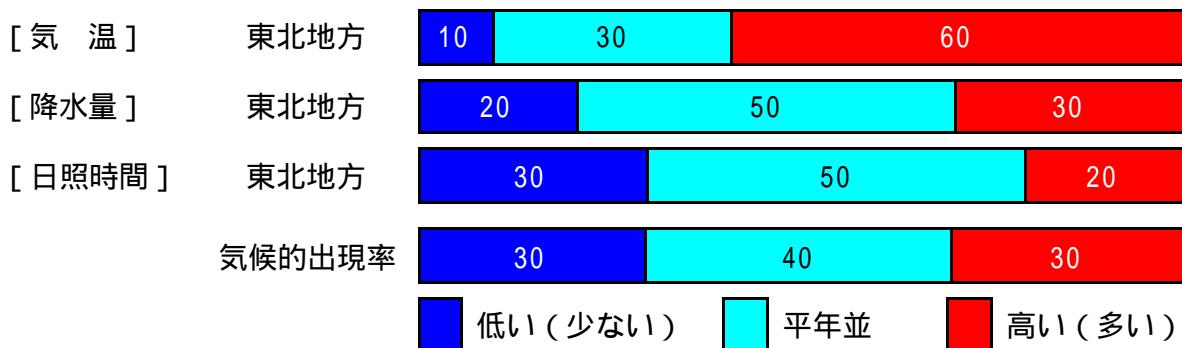


東北地方 1か月予報の解説（予報期間：9月4日～10月3日）

平成11年9月3日 仙台管区気象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）



[気温]: 東北地方は「高い」の可能性が大きく、その確率は60%です。次に大きい確率は「平年並」で30%です。「低い」の確率は10%と小さい。

[降水量]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「多い」で30%です。「少ない」の確率は20%と小さい。

[日照時間]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「少ない」で30%です。「多い」の確率は20%と小さい。

2. 予想される天候の特徴（もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。）

向こう1か月

東北地方は、天気は周期的に変化するでしょう。期間の後半天気がぐずつく時期がある見込みです。

この期間の平均気温は高い見込みです。平年の晴れ日数は約14日です。

各予報期間の天候の特徴

1週目…………… 向こう1週間は、高気圧におおわれ概ね晴れます。期間の後半には気圧の谷が通過するため、東北北部を中心に曇る所がある見込みです。

平均気温は高い見込みです。平年の晴れ日数は約4日です。

詳細は週間天気予報を参照して下さい。

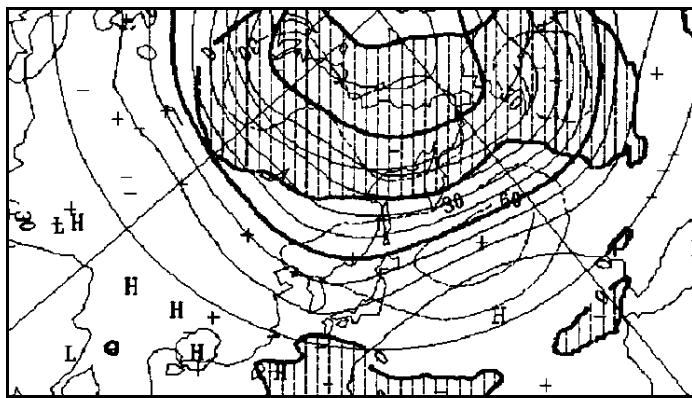
2週目…………… 天気は周期的に変化するでしょう。

(9月11日～9月17日) 平均気温は高い見込みです。平年の晴れ日数は約3日です。

3～4週目…………… 天気は周期的に変化するでしょう。前線や低気圧の影響で、天気のぐずつく時期もある見込みです。

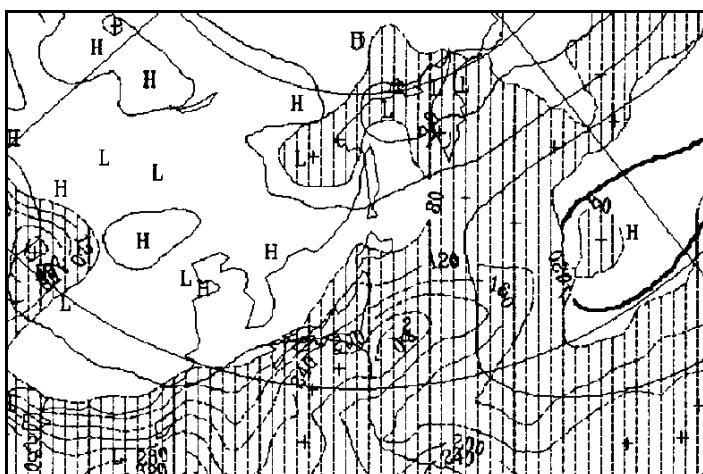
平均気温は平年並の見込みです。平年の晴れ日数は約7日です。

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



月平均の 500hPa 高度・偏差

(等高度: 60m 每、偏差: 30m 每、陰影部: 負偏差)



月平均の地上気圧と降水量

(等圧線: 4hPa 每、降水量: 40mm 每、陰影部: 80mm 以上)

・500hPa 高度・偏差

月平均でみると、日本付近は、日本の東海上を中心とした広く正偏差に覆われる。ゾーナル^{注1}な流れでやや西谷^{注2}傾向。このため天気は周期的に変化し、気温は高めに経過しやすい。

3週目（図略）以降、西谷の傾向が強まり、天気がぐずつく時期があるみこみ。

注1) ゾーナル：偏西風の蛇行が小さい状態。低気圧や高気圧が順調に東進し天気は周期変化しやすい。

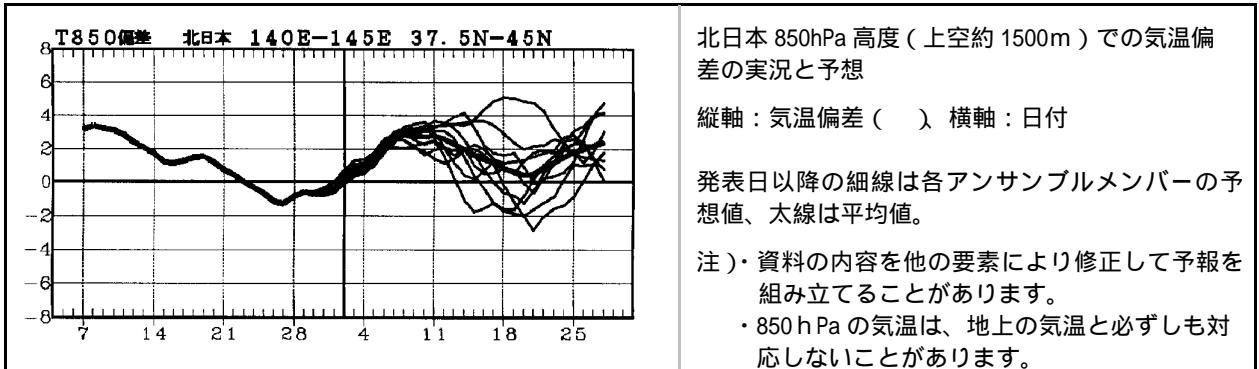
注2) 西谷：上空で日本の西側が気圧の谷となり、南から暖かく湿った空気が入りやすい。

・地上気圧と降水量

月平均では、本州の南岸沿いに前線によるものと思われる降水域が予想されている。ただし1, 2週目（図略）は、降水域のまとまりはない。3~4週目（図略）は、ほぼ月平均と同様のパターンとなっている。

3. 北日本 850hPa の気温偏差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850hPa の気温は、アンサンブルメンバーの平均でみると、平年より高めに推移することが予想されている。ただし、後半のバラツキは大きい。



北日本 850hPa 高度 (上空約 1500m) での気温偏差の実況と予想

縦軸：気温偏差 () 横軸：日付

発表日以降の細線は各アンサンブルメンバーの予想値、太線は平均値。

注)・資料の内容を他の要素により修正して予報を組み立てことがあります。

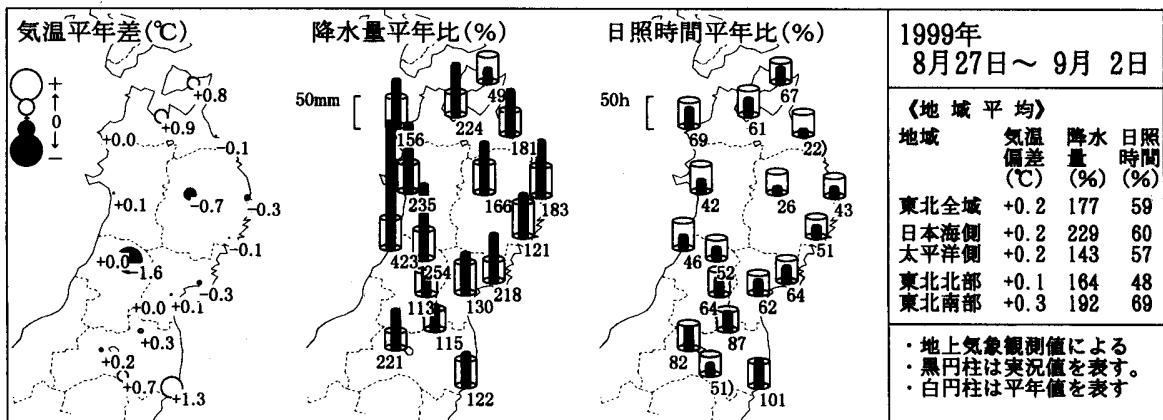
・850hPa の気温は、地上の気温と必ずしも対応しないことがあります。

注：1か月予報では、よく似た初期値から出発した10個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4. 最近1週間(8月27日~9月2日)の天候の経過

この期間、前線や低気圧の影響をうけ、雨の日が多く、局地的な大雨となる日もあった。

平均気温は東北地方で偏差が+0.2とほぼ平年並となった。降水量は東北地方で平年比177%と平年を上回った。日照時間は東北地方で平年比59%と平年を下回った。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)